

挑む私学

麗澤瑞浪中学・高等学校

道徳教育を土台に
志を磨く

1935年開塾の道徳科学専攻塾に端を発する麗澤瑞浪は、1960年の開校以来、道徳教育に力を入れてきた。磨いた心を土台として、国家や社会の発展に貢献できる生徒の育成を目指している。

例えば朝のホームルームや寮の夕礼では、同校が大切にしている道徳的価値観をまとめた日めくりカレンダーを朗読し、自分の行動や人との関わり方を振り返る時間を設けている。また、東京ドーム約60個分の広大なキャンパスにはゴルフ場が整備されており、全校生徒が体育の授業でゴルフに取り組むのも特徴の一つだ。

人のかかわりを通じて器を広げる

全校生徒のおよそ半数が生活する寮では、担当教員が見守るなか、生徒が、よりよい寮生活づくりに主体的に関わる「自治」の精神を大切にしている。

「日中は取り繕えても、24時間一緒だとお互いの素が出てきます。他者との関わりの中で、自分が大切にしている価値観や向き合うべき課題が見つかることは多いで

「知徳一体の教育」を基本理念とする麗澤瑞浪中学・高等学校（岐阜県瑞浪市）は、「深く関わらなくても生きていける時代に、誰かと共に生きられる強い心を育てる」ことにこだわっている。その理念は道徳教育や寮など、あらゆるところに表れている。教頭の松本兼太郎氏取材し、同校の具体的な教育内容や魅力に迫った。

ている。

す。トラブルはつきものですが、本校ではそれを成長の機会と捉えて生徒と共に課題解決に臨んでいます」と松本教頭は語る。全国各地はもとより、通学圏内であっても「寮に入りたい」と入学してくる生徒は少なくないという。

注目を集める4月
開設の新コース

今年4月、高校に「アントレプレナーシップコース」が新設された。激しい変化の時代において、生徒が自ら問いを持ち、行動に移す力を育てるコースだ。

外から与えられた目標ではなく、自分の内側から湧き上がる関心や意欲を学びの出発点にすることを重視し



新設された「アントレプレナーシップコース」の一幕

「将来、どうありたいか」という問いへの答えは、これまでの経験や見聞きした情報をもとに、限られた選択肢の中から考えがちだ。だからこそ同コースでは、自分が何に心を動かされ、何を大切にしたいのかを見つめ、情報が溢れる時代に必要なた判断軸を育てている。

入試では、学力試験に加え、課題解決型プレゼンテーションを課す。自分の考えを整理し、相手に伝え

る力も見るとためだ。初年度となる今年は17名が同コースに入学した。実際に学び始めた生徒たちからは、「完璧なアイデアでなくても、

行動に移すことが大事だと思った」といった感想も寄せられている。

同校では、アントレプレナーシップを大学での学びやその先の人生を通じて育んでいくものと捉え、卒業後は大学進学を推奨している。探究的な学びや自己



松本兼太郎 教頭

多様な進学希望に
応える手厚い支援

（9／20－21）を開催する予定だ。

生徒はルールやマナーを大事にし、穏やかで親しみやすい雰囲気があるという。好奇心も旺盛で、部活動と勉強の両方に全力で取り組みたいという思いを持つ生徒も多い。豊かな自然の中で、全国から集まる仲間と共に探究的な学びにも挑戦できることから、「自分の関心や進路を見つけたい生徒さんにもお勧めです」とのこと。

開校以来、全寮制を採用してきた同校は、約30年前に通学生を受け入れるようになった。現在も寮のある学校としての印象は強い

が、通学生も含め、多様な生徒が学ぶ学校として広がりを見せている。今年は高校の募集も好調で、定員110名に対して157名が入学した。松本教頭は「私立高校無償化拡充の影響もあります」としつつ、新設されたアントレプレナーシップコースも含め、同校への関心は高まっていると語る。

進路面では、個々の志望に応じて総合型選抜に積極的に挑戦する一方、約900の指定校推薦枠があることも同校の強みの一つだ。さらに、国公立大学や難関私立大学の現役合格を目指す選抜クラスでは、大半の生徒が一般選抜を受験し、国公立大学に合格する生徒の割合は毎年60％に迫る。生徒から好評なのが「学

習実行録」で、日々の生活

や学習の記録に対し、担任が毎日短いコメントを返している。こうした温かなやり取りに基づく教員の伴走も同校の特徴の一つと言えよう。

道徳という基礎を築きながら、今の時代に合った教育を積極的に採り入れている麗澤瑞浪。これからのように進化していくのか、非常に楽しみだ。

道徳教育を基礎とする麗澤瑞浪
アントレプレナーシップコースを新設

雄大な自然に囲まれながら、生きる力を育んでいく麗澤瑞浪中学・高等学校